

南大東村教育委員会

所在地 沖縄県島尻郡南大東村字南 144-1(南大東村教育委員会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

「島まるごとミュージアム」づくりに向けて

南大東島は、「島まるごとミュージアム」をコンセプトとしてエコツーリズムの推進に取り組んでいる島として、少しずつ注目を浴びる地域となっている。これまでは、特異な自然を魅力のベースとして島の魅力を発信してきた。

近年、観光において食への関心が高まっているが、本村へ訪れる観光客も例外でなく、アンケートでも「地元の食材を利用した食事」を求める結果が出ている。食は土地の自然を縦糸に、文化を横糸として喩えられている。そこで、本村では、食文化を新たに発掘、発見、発信していくための食の宝カレンダーの作成を行うため、昨年からの食のワークショップに取り組み始めた。

今後は、その内容をどう生かして、カレンダー作りを行い、どう活用していった、地域づくりに結びつけ、エコツーリズムの新たな魅力として、村内外に発信していく方法を検討していく必要がある。このようなことから、今回エコツーリズム推進アドバイザーを利用し、取組体制、地元住民、観光業者、行政の役割分担などを明確にしたいと考えた。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	
地域資源を通じて、地域を誇り、発信する人材を育成したい。	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること) 農業体験(サトウキビ刈り体験)で刈り取り、収穫、黒糖作りを行う		
(取組を検討していること) 島の食を体験する		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 19 日（日）～21 日（火）

●場所

視察場所 南大東島の宝さがし成果確認

- ・ 基幹産業サトウキビの製品荷役風景
- ・ 戦跡・新ホテル等
- ・ ワークショップ及びヒヤリング場所
- ・ 南大東村離島振興総合センター
- ・ 他村内各地（村内ホテル内会議室・観光プラザ・漁業組合・食堂など）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板昭夫 氏

●参加者

生活改善グループ（9名）、南大東村（10名）、商工会（2名）、観光推進協議会（4名）
漁業組合（2名）、ホテル関係者（2名）、観光プラザ（3名） 合計 32名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

- ・ 関係者全員を集めた講義的な形をとらず、観光関係の軸となる方々を個々に視察訪問し、きめ細やかなヒアリングを行いながら、食のフェノロジーの活用方法のアドバイスと新しい観光ツアーなどのアイディアのアドバイスを行った。
- ・ 食のフェノロジーをより完成するため、カレンダーの内容をワークショップやヒアリングをしながら確認。現在作成しているカレンダーを広げ一つ一つの食材を季節ごとに間違いがないか、また、他の食べ方、活用方法はないかなど話し合った。
- ・ 島の基幹産業であるサトウキビの刈り取りシーズンのダイナミックな作業を視察した。又、最近沖縄県内で保存活用が見直されている戦争遺跡であるが南大東島でも貴重な戦争遺跡があるので視察してもらった。（今後の観光プログラムに活用出来ないか見てもらった。）

他に、新しく出来た観光プラザ、ホテル、漁業組合を視察した。

(1日目)

- ・ 観光推進協議会が設置したプラザについて詳しい内容をヒアリング及びアドバイス

(2日目)

- ・ サトウキビの刈り取りと製品の荷役作業視察
- ・ 島の新たな宝として発見された戦争遺跡の視察
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーの活用方法について

- ・ 島のビロウ林内の動植物の多様性調査をエコツアーとして組み込み方法について論議
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーの内容の確認

(3日目)

- ・ 食のフェノロジーを活用した食の提供、プログラムをアドバイス
- ・ 南大東島唯一の観光業者関係者に、南大東島の現在の観光内容のヒアリング
- ・ 誘客のためのエコツアー・ランドオペレーションについての打ち合わせ
- ・ 観光関係の産業課へ挨拶とフェノロジーの内容経過を報告

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 島でこれまで行ってきたツアーに何が足りないのかが明確になった。
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーが大いに利用できるものだとわかった。
フェノロジー・カレンダーは、「季節暦」でもある。島の気候、海や動物、植物などの自然の移り変わり、それに応じて変化する農業、漁業、生産活動、祭りや祭事、食など1年間のカレンダーとして表すものであること。
- ・ 季節、年間を通した食材の確認が出来たことで、新しい商品作りが出来やすくなる。
- ・ 新たな島の魅力を生み出す方法のヒントがあった。
- ・ 食に対しては、多くの人の感心があることがわかった。
- ・ 食を通して生まれる連携は、けして難しいことではないような気がすることがお互い理解できたのではないかと。
- ・ 一人一人の役割が明確になりやすい。
- ・ 生物多様性の調査など、目的をもった旅ともいべき新たなタイプのツアー・プログラム開発の可能性が示された。
- ・ 島の受入体制としてランドオペレーターなどの必要性を認識した。



●今後の期待される効果

「食」は、素材を作ったり、獲ったりしてくれる人たち、料理をしてくれる人たちの関わりによって生まれるものであり、食と関わるということは島の人たちの紹介も行い得るものである。

「自然と食」「文化と食」「人と食」というように食はあらゆるものと表現が一緒に出来る。南大東島は、現在観光の第2段階を迎えようとしており、この「食のフェノロジー・カレンダー」を作成することが新たな観光戦略としての「柱」になり「食」と「人」を結びつけ、南大東島の魅力を立体的に発信していくための重要なツールとして位置づけができる。

そのカレンダーを活用すれば、地域活性化が図られるだけでなく、地域全体を巻き込んだ、料理講習会、試食会を開き、新しいツアーメニューの開発が促進されて島の新たな魅力が発信できる。

他に、学校給食として活用したり、島の新たな特産品の開発に役立つ。また、観光推進協議会が中心になって、島の受入体制づくりやツアー・プログラムの開発への取組の推進が図られる。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

岩手県二戸市で昨年開催された、エコツーリズム大会で「食」を中心としたツアーが大きな評価を得たということで、南大東島でもぜひ「食」を中心として地域活性化やツアーを企画したいと思った。

また、琵琶湖西側に位置する高島市の事例として「食のフェノロジー・カレンダー」を作成したことによって、トレッキングコース作りと、そのコースを掲載した「高島うまいものマップ」が作成されたことにより、通年観光への方向性が見え、夏がハイシーズンであったが、うまいものが「冬」にあるということが明らかになり「食」をテーマとした観光が浮上したという。南大東島でも、通年を通したツアーの企画を考えるためのいいヒントになった。



●その他感想

本村は、体験ツアーなど魅力的な資源を中心として、観光客の数も増え始め、島を訪れる人が増えてきた。しかし、今の観光の流れは、旅行代理店指導型から地域指導の「着地型観光」へ変わってきている。島でも、特産品を作る人やホテル関係者、ガイドする人など観光に携わる人達を中心となって立ち上げた観光推進協議会があるが、これまでその方向性が見えない状態で一体感が今ひとつなかった。しかし、その一体感が生まれるアイテムとして「食のフェノロジー・カレンダー」が活用できれば、観光のさらなる発展が生まれると同時に、地域の活性化の核となる産業に発展するのではないかと期待している。また、子ども達からお年寄りまで、地域全体が「食」の大切さを改めて認識できるのではないかと思った。

最後に、これまでに頂いたアドバイスや資料を活かすためにも、食のフェノロジー・カレンダーを完成させ、印刷物として作成し、島の人誰もが活用出来る体制を作って行きたい。また、島外にも南大東島の「食」をアピールするためのアイテムとして利用できるようにしていきたい。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザーからの地域へのアドバイス

●南大東島の観光のスタイル

地域資源、また環境容量、観光インフラからみて、今後の南大東島の観光振興はリピーターの獲得にある。「何回でも訪れたい島」と感じてもらえる仕掛けづくりが、これからの課題である。そのキーワードは「食と人」島の特異な自然をはじめとする資源を、このキーワードと結びつけたエコツアー・プログラム開発を行う。

●「島ならではの食」の抽出ー「食のフェノロジー・カレンダー」の作成ー

情報の確認、追加の過程において、島ならではの素材や料理、また季節ならではの素材や料理を抽出していき、それらの料理の講習会、またそれを食べるイベントを実施し、島民や島外の客からの評価をみる。

●「島ならではの食」を食べられる所と時

そうした料理をツアー客が島のなかで食べられる場所をつくること、また、いつ、どこで食べられるかという情報を誰もが入手可能にすること。

●新しいプログラムの開発ー島への貢献の足跡を残すツアー、リピーターづくりー

南大東島を特色づける防風林（ピロウ林）は宝の宝庫であり、この宝探しは多様なプログラム開発に寄与する。自然及び、戦跡などの歴史・文化の宝探しの調査、専門家の指導の下に行ったらどうか。

その際、関心の深い層にこの調査への参加を呼びかけ、ツアーとして実施する。参加者の好奇心・向学心を満たすことができるばかりでなく、島の振興に貢献したという満足を得ることができる。島のファン、リピーター獲得にもつながる。

●取組体制づくり

観光関連事業者で構成されている観光振興協議会は食や新しいタイプのプログラム開発に関心をもっている。この組織が、エコツーリズム・プロデューサ（あるいはランドオペレーター）としての機能を高め、島の宝を商品としてのエコツアー・プログラムとして洗練し、プロモーション、販売の核となっていくことが必要。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 観光関連事業者はもちろん、行政、島民に「島まるごとミュージアム」の考え方が浸透している。ことに「食のフェノロジー・カレンダー」の作成作業は、「島まるごとミュージアム」に対する女性たちの関心と関与を高めた。たいがい元気な地域は女性が元気である。南大東島でも、女性たちがエコツーリズム推進の担い手として活躍することを期待している。
- ・ 「食のフェノロジー・カレンダー」は、島民及び島外からの来訪者に、南大東島の食を自慢するツールとして広く使えるよう、きれいな印刷物などにしたらどうか。

- 観光振興協議会のメンバーは、南大東島の観光のあるべき方向をよく認識している。南大東島の観光振興の核としての使命感をもって、経験を積み重ねていただきたい。
- 南大東島にはまだまだ発掘されていない宝がたくさんありそうです。幕（はぐ）の防風林（ビロウ林）の宝探しは、「島まるごとミュージアム」の財産目録の充実作業として、是非、取り組んでいただきたい。

NPO 法人西表島エコツーリズム協会

所在地 沖縄県八重山郡竹富町字上原 870-277 (NPO 法人西表島エコツーリズム協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりへ

観光が主産業の一つである西表島では、近年、沖縄ブームの沈静化、円高による観光客の海外流出、他離島との航空運賃の格差、などの複数の要因が重なり観光客数の減少が著しい。対比して石垣島からの日帰りによるエコツアー参加者の割合は増加傾向にあり、一部の観光スポット（観光資源）への、集中した環境負荷が問題となっている。

滞在型観光の促進や天候に左右されないエコツアーの開拓は、予めから提言されてきているが、従来の形態からなかなか抜け出せず、商品化に結びついていないのが現状である。

こうした「行き詰まり」とも言える状況に直面している今こそ、地域が協働して、潜在する島の魅力（＝観光資源）を、再発見・再発掘し、新たなエコツアーや滞在型観光プラン、その受け入れや発信の仕組みを作っていくことが必要であり、同時にその中での「西表島エコツーリズム協会」の役割を再確認することも重要であると考えられる。

今回のエコツーリズム推進アドバイザー派遣を利用させていただき、他地域での実践例や専門家のアドバイスを基に、従来の西表島のエコツーリズムへの取組とエコツーリズム協会の意義の見直し、観光資源の再発掘とその有効な活用、地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりを行っていきたい。